

## 「自ら求め、学ぶ生徒の育成」

—対話を通じた授業づくり・構造化の追求—

### I 主題設定の理由

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点で学びの質を高める授業の構造化を図った。特に、自らが進んで学び、自力解決させ、対話を通して学び合う生徒を育成するとともに、われわれ教師集団が、子どもたちにどのような力をつけさせたいのか、明確にさせながら授業を組み立てることを意識して日々の授業実践を重ねてきた。また、その基盤となるのが、探究型授業を確立させることであった。その授業の構造が、甲州市で作られているティーチャーズノートにある「見通し」→「自力解決」→「学び合い」→「問題解決」→「評価」→「振り返り」の形である。探究型授業の型をベースに、各教科、各教員が授業を組み立てていった。探究型の授業を実践することだけにとどまらず、探究型の授業の型を共有し、それを互いに見合い、生徒やクラスにあった授業を作ることを本年度は意識して実施してきた。

特に本年度は以下の3項目を重点内容として研究を行った。

#### ① つけさせたい力、ねらいを明確化する

知識を身につけたあと、応用的な内容に発展していく中で、子どもたちにどのような力をつけさせたいかを考え、可視化することで、ねらいを明確化させる。

#### ② 教科横断的な考えを持つ

教科の特質に応じた授業をすることが基にあり、その上で、他教科の授業からどうつなげられるかを考えるために、お互いの授業を見合う。

#### ③ 道徳の教科化に向けた取り組み

道徳の教科化に伴い、教科書の内容に沿った道徳の授業をどのようにとらえていくのかを明確にすること。道徳の評価の在り方の検討を行い、生徒自身の変容や価値への気づきなどを見とる。

### II 研究の具体的な内容と方法

#### 1 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとタイアップした教育研究

##### (1) 家庭学習の充実

今までの松中ノートの取り組みを充実させるために、全校統一で振り返りノートの実施を定着させた。また、個に応じた学習ができるようプリントを用意しておき、取り組みやすい形式にした。

##### (2) ハイパーQ・Uの実施と結果分析

学級・集団づくりの質の向上のため、ハイパーQ・Uを実施し、学年ブロック研究部会に分かれて、K13法による結果分析を行った。

##### (3) めあて、ねらいの可視化＝ピクトグラムの活用

昨年度の校内研の取り組みを活かすとともに、甲州のプロジェクトの一環として、「めあて」を教員・生徒が意識した授業を徹底した。

## 2 本校独自の教育研究

### (1) 道徳の教科化に向けた研究

特別の教科道徳の授業実施に伴い、道徳の授業の方法の探求を行った。さらに、道徳の評価を行うために、ポートフォリオ評価の作成と文章による通信表への記載の方法について取り組んだ。

### (2) お互いの授業を見合う

小規模校で、各教科1人で行っているため、教職員一人ひとりがさらなる授業力の向上を目指すためには、教科横断的な授業の視点を持つことが大切である。若手、ベテラン問わずに授業を見合うことにより、授業力のさらなる向上に取り組んだ。

### (3) 学びの基盤づくり

学びの集会を実施し、学ぶことの意義について生徒が考えた。また、生徒同士、教員から生徒への学習方法のアドバイスを行った。また、本年度は学力向上キャラバンとタイアップし、学習の仕方についての考え方を深めた。

## III 成果と課題

### 1 成果

年間を通しては、教科横断的な考えを持つために、一人一実践に合わせてお互いの授業を見合った。他教科の授業を見ることで、新たな指導法を見つけ出す良い機会となった。普段の授業においては、問題に対する自己との対話、ペアやグループでの話し合い活動の時間を設けた。それにより、気になったことや新たな考えをノートにメモする生徒が増えた。また、話す人に注目して話を聞くことができる生徒や自分の考えを持ち、口頭及び記述で表現することができるようになった生徒が増加した。

また、本年度は特別の教科道徳についても力を入れ、発問の工夫やALの視点を取り入れた授業展開の方法などを峡東教育事務所の中村指導主事を講師に招いて学習を行ってきた。さらに、道徳の評価については、評価の根拠となるポートフォリオの作成や評価の記載を簡略化し、個に応じた文章記載ができるようなソフトの開発を行うことができた。

### 2 課題

甲州市「確かな学力」育成プロジェクトで言われているように、学級集団のさらなる向上が必要である。小規模校だからこそ、人間関係の固定化が起きてしまっている面もあるので、QUをさらに活用し、すべての生徒にとって居心地の良い学級集団を目指していく。授業においても、授業で学んだ知識及び技能などをただの学びにとらわれるのではなく、生活でどのように生かしていくのかをふまえた深い学びにしたい。

## IV 成果物

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1 一人一実践             | 2 学びの集会の実施および授業評価シート |
| 3 松中ノート（家庭学習ノート）    | 4 特別の教科道徳のポートフォリオ    |
| 5 特別の教科道徳の所見作成参考ソフト |                      |

（研究主任 雨宮友久）